

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470200880
法人名	社会福祉法人 いきいき福祉会
事業所名	ラポール西寺尾
訪問調査日	平成20年2月19日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470200880
法人名	社会福祉法人 いきいき福祉会
事業所名	ラポール西寺尾
所在地	221-0001 横浜市神奈川区西寺尾3-22-5 (電 話) 045-434-7712

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 2 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4.6 人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 2 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000	円	その他の経費(月額)	30,500	円	
敷金	有(円)		(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	①(200, 000 円) 無		有りの場合 償却の有無	①/無		
食材料費	朝食	300	円	昼食	350	円
	夕食	400	円	おやつ	150	円
	または1日当たり 1200 円					

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1		名	要介護2	2	名
要介護3	1	名	要介護4	3	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 84.2 歳	最低 78 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神之木クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは社会福祉法人いきいき福祉会の経営する施設である。いきいき福祉会は広ゆるやかなネットワークを組んでいて、そのグループの中では色々なワーカーズコレクティブが存在し、それぞれ任された施設若しくは部門を運営する形を取っており、ここグループホーム ラポール西寺尾はワーカーズコレクティブ「さやえんどう」が運営を任されていて、管理者の武田さんはその「さやえんどう」の代表でもある。建物の1Fにはデイサービスセンター ラポール西寺尾があり、登録者25名で運営をしている。近所にはシニアマンションも何棟あり、そのマンションの高齢者に対するサポートを行っているサポートハウス カントゥ西寺尾が、そのマンション内の1室のありケアを展開している。近くには西寺尾保育園があり交流がある。また近くの中学校からは体験学習でデイを含めた実習にラポール西寺尾へ来ている。いきいき福祉会の理念の中には開設当初より「地域コミュニティ」の視点が掲げられており、地域に根ざしたワーカーズコレクティブ活動を中心とした、地域に密着した展開が為されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での指摘事項は無かったが、この1年は昨年2月にグループホーム内で認知症デイサービスを開始したため、それに対する体制固めを中心に取り組んだ。外部からの訪問者による利用者の混乱を最小限に抑え、スムーズな導入に努めた。その結果、デイの導入によるメリットとしてレクリエーション活動の充実、日常活動のメリハリ、リハビリの促進などで多大な効果が見られた。利用者の欲求に対する対応での偏りが、デイの導入で自然なレクが行え、メリハリによる活力の高揚、楽しみながらのリハビリなどが見えて来た。今後もデイを効率的に活用しつつデメリットの解消とメリットの拡大を求めて活動して行く。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価、外部評価の意義についてはカンファレンス等で周知し職員間での共有は出来ている。評価のプロセスに於ける気付きや評価結果については結果を共有し改善に取り組んで行く予定にしている。介護計画について変化の少ない方の計画の立て方、見直しの仕方については工夫を要するが常に課題として捉え継続的に工夫して行くことにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議については法律が決まった1昨年に、このような会議が必要となるとの情報を各方面に流してあった。横浜市が1年間凍結したのですぐの実施は無かったが、実施に先立ち平成19年3月には運営推進会議を前提としたシュミレーションとしての交流会を行いテスト済の状態にあった。その後、平成19年5月横浜市は運営推進会議実施の指令を出し、ラポール西寺尾は平成19年8月に第1回目の運営推進会議を町内自治会の方、民生委員、ご家族2名それに事務局とオブザーバーの地域包括支援センターの方と云うメンバーで実施し今日に至っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族は月1回以上は必ず訪問してくれており、来訪時には状況を出来るだけ細かく説明しているので「ホーム便り」と云ったことで堅苦しく考えるよりも、日常の状況で気付いたことなどを記入する連絡ノートを利用者別に作り、来訪時にはノートを見てもらい、コメントを頂くことにしている。但し、良く読んで頂いているものの、なかなかコメントを書いて頂けない。ワーカーの励みの為にもコメントもお願いして行きたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会長さん、民生委員さんはご近所なので散歩の時にご挨拶出来る体制であったので運営推進会議もスムーズに実現が出来た。利用者さんの気が乗らなくても欠かさず散歩を続けたことをご近所の方は見てくれていて、運営推進会議やSOSネットワークなどへの協力の源となったことを運営推進会議の場で聞きうれしく思っている。保育園、中学校、ワーカー経由でご協力頂いているボランティアにも協力を感謝している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の中に「コミュニティー福祉の視点を重視する」と言う項目があり、住み慣れた地域で、住み暮らすことを支援している。		いきいき福祉会は広いゆるやかな地域ワーカーのネットワークを組んでいて、そのグループの中では色々なワーカーズコレクティブが存在し、それぞれ任された施設若しくは部門を運営する形を取っており、ここグループホームラポール西寺尾はワーカーズコレクティブ「さやえんどう」が運営を任されていて、管理者の武田さんはその「さやえ
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容は、福祉の基本的なことなので、努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者それぞれが自治会費を払い、入会しているので、回覧板を通じて行事が分かるので参加している。1階にデイサービスがあり、職員は地元のワーカーズコレクティブ「さやえんどう」のメンバーで地域との広がり広域である。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義は職員間で共有している。評価結果を共有し、優先順位を付けて改善に取り組んでいる。	○	状態に変化が少ない方の介護計画も定期的に見直しをするという点で工夫を更に継続的に努力する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については法律が決まった年に、情報を得て各方面に流してあった。実施に先立ち平成19年3月には運営推進会議を前提としたシュミレーションとしての交流会を行いテストを実施した。その後、横浜市は運営推進会議実施の指令を受け、ラポール西寺尾としては平成19年8月に第1回目の運営推進会議を開催し今日に至っている。	○	まだ、運営推進会議は始まったところなので、今後参加者の率直な意見を反映して行きたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側からの機会作りはできていない。グループホームの数から考えて、市・区が個々のグループホームとの取り組みに時間を割くのは困難ではないかと思う。		地域包括支援センターとの協調を中心とし、市町村担当者との関係も運営推進会議等で連携を続けて行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の移動や、新人の紹介は、家族が集まるクリスマス会を利用して紹介している。また、暮らしぶりや健康状態は随時、電話等で家族に報告をしている。前回の外部評価後に個人用のノートを取り入れ、ご家族との情報交換にかつようしている。	○	個人用のノートをより一層活用出来るよう検討を続けて行きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、利用者同様、職員間で共有、検討し反映できるように努力している。上記のノートに家族の意見が記述されることが望ましいと考えて記入を促している。	○	ノートにご家族の意見が書きやすいよう形態をさらに検討する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は個人お希望なので抑えることはできていないが、新人は急にシフトに入らず、1ヶ月の研修期間を通常の人数に加えて就業しながら、なじみの関係を作るようにしている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、経験者が一緒に仕事をするように組み育成し、段階にあわせて外部研修を受けるようにしている。	○	更に内部研修の充実を図りたいと思っている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市のグループホーム連絡会に加入している。連絡会の神奈川区を含む分科会はやや不活発で充分な同業者との交流はできていない。		今後も継続して模索して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まった方は、日帰りで数回、ホームに遊びに来て頂き、慣れた状態で入居するなど取り組んでいる。現在、共用型認知症対応型通所介護（認知症デイ）を利用の待機者がいる。さらに1Fのデイサービスとの連携からこのグループホームへ無理なくアプローチが可能である。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との関わりを楽しんでいると思われる。また、そのように心がけている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、職員が数名いるときにミニカンファレンスをし、その場にいない職員にも報告している。	○	ミニカンファレンスに対する意見やコメントの記入をもっと充実するよう促して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の暮らし方は、本人の意向や職員からの提案等を検討し、家族に相談し、計画につなげている。アセスメントにはセンター方式から抽出したアセスメントシートを活用している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の生活は、現状に添ったものではなく、計画書の変更は現状必要性がはっせいしていない。		計画書の見直しの必要性の見極めを更に努力を重ねたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内で認知症デイを開始し、外部からの訪問者による利用者の混乱を最小限に抑え、スムーズな導入に努めた。その結果、レクリエーション活動の充実、日常活動のメリハリ、リハビリの促進などで多大な効果が見られるとともに地域との双方向交流が実現出来た。		今後もこのメリットを地域密着の推進に生かして行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、今までかかりつけた医療機関を継続されている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針の同意を得、個々にあった話し合いはしている。職員間でも、個々の利用者の考え方は、把握するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには注意をしている。誇りや、プライバシーを損ねる言葉かけは、入居時の個人の把握が不十分な頃には、思いがけず起こることがあるので注意を喚起している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や、散歩など個人の希望に添えない場合もあるが、ほぼ自由に生活されている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは重視している。調理は出来る方には手伝っていただいていたが、出来なくなってきた。下膳、食器洗いはしてくれる方もいる。(異食をする方がいるので、難しくなった。)	○	お菓子作り等、何か楽しく出来ることを模索したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望のある方は、時間等尊重している。自己決定が困難な方はある程度こちらで誘導する。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リビングで得意な歌と一緒に歌ったり、ゲームをしたり、散歩や買い物に出かけたり、気分転換は図っている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、毎日でも出かける。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関は、職員が一人の時間は、入居者の安全のために施錠している。ご家族等の了解を得ている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はしているが、地域の協力が得られるような働きかけはしていない。運営推進会議で検討する課題としたい。周りをシニアリブインに囲まれているので、協力を得るより、支えあうかだと考える。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、大きさ堅さなど工夫しているが、水分摂取は、勧めてもあまり飲まない方の摂取量は、少ない。	○	水分摂取量は、足りない方には工夫を検討していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物等を工夫している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の変化に応じて工夫はしている。共用空間で一人になれる場所を工夫しようといろいろ試してみたが、成功していない。	○	まだ、工夫の余地があると思い、職員間で検討中。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ラポール西寺尾
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	221-0001 横浜市神奈川区西寺尾3-22-5
記入者名 (管理者)	武田 英子
記入日	平成 20 年 2 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の中に「コミュニティー福祉の視点を重視する」と言う項目があり、住み慣れた地域で、住み暮らすことを支援している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容は、福祉の基本的なことなので、努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には契約時に説明をしているが、地域には浸透していないと思う。	○	運営推進会議や広報誌などで、伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々とは挨拶を含め、気軽に声を掛け合う方々もいますが、マンションが多く、いろいろな方とお付き合いはできていない。又、ホームの入り口が、奥まったところなので、表から分かりにくく、気軽に立ち寄る方は限られている。	○	以前、近所の方を招いて節句のイベント等をしたことがあったが、立ち寄る機会を企画できればと思う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者それぞれが自治会費を払い、入会しているので、回覧板を通じて行事が分かるので参加している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームのリビングを共用型認知症対応型通所介護を開所することで、地域の認知症の方々のサポートを開始したが、ホームのターミナルケア等で職員の注意がホームに集中し、進んでいない。	○	共用型認知症通所介護を通して、居宅介護支援事業所と連絡を取る機会も増えたので、地域のニーズを把握して、私たちに出来る地域支援を模索したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義は職員間で共有している。評価結果を共有し、改善に取り組んでいるが、改善し切れていない点もある。	○	状態に変化が少ない方の介護計画も定期的に見直しをするという点が、できいていないが、継続的に努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム於ける課題を提示し、意見を求め検討を重ねている。	○	まだ、運営推進会議は始まったところなので、参加者の率直な意見を反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側からの機会作りはできていない。グループホームの数から考えて、市・区が個々のグループホームとの取り組みに時間を割くのは困難ではないかと思う。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対しての学習会等は出来ていない。入居者家族に対し、案内はしているが、適切な支援はできていない。	○	職員に対しては、学習会を持つように取り組む。必要な方への支援は、随時行うようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待(拘束を含む)に関しては、職員間の会議で話し合い、徹底に努めるようにしている。	○	拘束に関しては、止むを得ない場合のために基準やマニュアルを決める取り組みをしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は、必ず職員間で共有、検討し反映させることが出来るものは取り入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の移動や、新人の紹介は、家族が集まるクリスマス会を利用して紹介している。また、暮らしぶりや健康状態は随時、電話等で家族に報告をしている。	○	前回の外部評価後に取り入れた個人用のノートは今後も活用していきたいが、なかなか書く時間が作れず、継続できるように検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、利用者同様、職員間で共有、検討し反映できるように努力している。	○	上記のノートに家族の意見が記述されることが望ましいと考えるが、家族がコメントを書きやすい形態を検討する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で、いろいろな事を話し合うが、運営に関しては反映できているとは言い切れない。	○	努力はしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や、ターミナル期の緊急対応等、調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は個人お希望なので抑えることはできていないが、新人は急にシフトに入らず、1ヶ月の研修期間を通常の人数に加えて就業しながら、なじみの関係を作るようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、経験者が一緒に仕事をするように組み育成し、段階にあわせて外部研修を受けるようにしている。	○	内部研修の充実を図りたいと思っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	できていない。シフト組が人員ギリギリの状態のために、管理者及び一部の職員が過密勤務になる。休憩する場所がない。	○	職員が過密勤務にならないように、人材確保に努める。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に一度、運営会議で事業報告をし、運営者は職員の努力や実績の把握に努めている。また、実績は、職員間でも共有している。管理者は常に、職員の不安や疑問を聞き、完全に努めている。	○	向上心をもって働くために、全員が意見を出し合えるような方法を話しあっていく。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込み、相談は、家族や居宅介護支援事業所からが多く、見学申し込み時に本人が来ることはほとんどないので、出来ていない。空き居室があるときの申し込みは、本人にも、話が聞けるが、待機申し込みの場合は、居室が空くまで、間隔があいてしまう。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	空き居室ができ、利用に至るまでは、面接に時間をかけ、本人の意向や家族の考え方等を、二人の職員でアセスメントしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居できない場合や、本人が在宅を希望している場合などは、在宅の他のサービスや他のグループホームや高齢者住宅などを説明し、案内している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まった方は、日帰りで数回、ホームに遊びに来て頂き、慣れた状態で入居するなど取り組んでいる。現在、共用型認知症対応型通所介護を利用の待機者がいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との関わりを楽しんでいると思われる。また、そのように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に支援方法について相談し、話し合っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に認知症に対する理解を深めていただくように勤め、今の本人の状況を把握していただくようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員にはできていないが、比較的近隣から転居された方々は、住みなれた場所への行き来や、主治医は入居後も変更せず、通院の支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にレクリエーションをしたりするときに座る場所を工夫したりしているが、難しい組み合わせは解消できていない。	○	個人の感情を刺激しない、トラブルに結びつかない遊び等の取り組みを模索中。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法事等に挨拶状を出してるが、ホームに来るのは故人を思い出し辛いと、挨拶状のみの付き合いになっている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、職員が数名いるときにミニカンファレンスをし、その場にはいない職員にも報告している。	○	ミニカンファレンス記録を作ってその場にはいない職員も話の内容が共有できるようにしているが、それに対する意見やコメントの記入をもっと充実していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴をアセスメントし、足りない部分は入居後も家族に聞いて補充している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務に入るときに、前の記録からチェックし、個々の利用者がどのような状態かを把握するようにしている。	○	職員によっては記録が少ないので、充実を図るようにする。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の暮らし方は、本人の意向や職員からの提案等を検討し、家族に相談し、計画につなげている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の毎日の生活は、現状に添ったものではあるが、計画書の変更が出来ていない。	○	前回も、もう少し短い期間で計画書の見直しをするようにということであったので、引き続き努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員のスキルによって記録が不十分。個別の介護計画がモニタリングできていない。	○	最近、モニタリング表を変更した。他の記録用紙も見直し、充実した記録がつけられるように、改善する。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	取り組んではない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に、散歩、折り紙、歌のどと一緒に協力していただいている。	○	ボランティアの拡大を図る。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	取り組めていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	取り組めていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、今までにかかりつけた医療機関を継続されている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、提携医は心療内科が専門なので、心理面からのサポートを受けている。又、場合によっては、カンファレンスに参加していただいている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医務室の看護師が健康管理をしているので、利用者の日々の状態を把握している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	インフルエンザ、肺炎、骨折、白内障など入院はいくつかあったが、退院のために家族や医療機関と相談し、環境整備に努めた。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの指針の同意を得、個々にあった話し合いはしている。職員間でも、個々の利用者の考え方は、把握するようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今までのターミナルケアをした方々は、主治医、提携医、看護師とも密に連携し、常に職員も情報の共有を徹底した。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居後は、家族に入居前の様子を何度も聞き、安心して住めるように努めてる。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには注意をしている。誇りや、プライバシーを損ねる言葉かけは、入居時の個人の把握が不十分な頃には、思いがけず起こることがある。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	納得できるように、言葉だけではなく、何度も説明し、確認する。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や、散歩など個人の希望に添えない場合もあるが、ほぼ自由に生活されていると思う。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容は家族に相談し、家族が対応するkが多い。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは重視している。調理は出来る方には手伝っていただいていたが、出来なくなってきた。下膳、食器洗いはしてくれる方もいる。(異食をする方がいるので、難しくなった。)	○	お菓子作り等、何か楽しく出来ることを模索したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー、紅茶等の嗜好品は個人の希望に合わせている。晩酌をする方もいた。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限り努力はしているが、各居室にトイレがあるので、自分でトイレに行って失禁することがあるが、居室内で過ごしているときは、プライドもあるので、トイレ誘導は出来ない人もいる。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望のある方は、時間等尊重している。自己決定が困難な方はある程度こちらで誘導する。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝食は、起床した方から配膳する。無理に起こさない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リビングで得意な歌を一緒に歌ったり、ゲームをしたり、散歩や買い物に出かけたり、気分転換は図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出るときには、自分で支払っていただく方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、毎日でも出かける。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近くの庭園には、花を見るために良く出かけるが、個別にいきたいところへは、対応できているとはいえない。	○	個別対応は難しいが、外出企画は少し多めに企画していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、FAXは利用していただいている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間や曜日は、限定していない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できる限り、身体拘束はしないケアに取り組んでいるが、止むを得ない場合も出てきている。	○	身体拘束の基準やマニュアルを作成し、止むを得ない場合は記録を残し、家族に同意を得るように、整備していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関は、職員が一人の時間は、入居者の安全のために施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごしているときは、プライバシーの侵害にならないように、お茶を持ち込んだり、自然に見守るように努力している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知状態が変わるごとに、違ったものが危険になるので、随時、対処している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、行方不明等は完全とはいえない。	○	家族に了解を取って、安心ネットワークの申し込み、近隣に写真と出身地を知らせる等、地域の協力を得る。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルはあるが、応急手当や初期対応の訓練は行っていない。	○	定期的なマニュアルの確認は行って行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はしているが、地域の協力が得られるような働きかけはしていない。周りをシニアブイーンに囲まれているので、協力を得るより、支えあうかだと考える。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	居室内での転倒を含め、家族には起こりうるリスクについては話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師の意見を取り入れて、医療記録は別にしてしている。その他、申し送りは徹底するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ全員が把握していると思われる。	○	薬に関しては、変更も多いので、これからも、把握の徹底に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	居室にトイレがあるために、排泄が自立の方ほど把握できない。食材のバランス、定期的な運動は取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は必ず、行っているが、毎食は取り組めていない。	○	毎食後、行うように努力していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、大きさ堅さなど工夫しているが、水分摂取は、勧めてもあまり飲まない方は、少ない。	○	水分摂取量は、足りない方には工夫を検討していく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、消毒等は実行している。	○	台所仕事も、排泄介助も職員がするので、感染症に関する話し合いは定期的にしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な塩素系の消毒、熱湯消毒、酢酸による消毒を使い分けているが、徹底できているとは、いえない。	○	職員によって、ばらつきがあるので、調整が必要。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口が奥まっていること、ホームが2階にあることなど、気軽には入りにくい様子。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り物等を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の変化に応じて工夫はしている。共用空間で一人になれる場所を工夫しようといういろいろ試してみたが、成功していない。	○	まだ、工夫の余地があると思い、職員間で検討中。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ、使い慣れた家具等を持ち込んでいる。また、家族と相談し、本人が居心地が良い状態を考えている。		
	○換気・空調の配慮			

84	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者本人が調節できない場合は、職員が調整している。 (アロマの消臭剤等を使用)		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に対応するために、浴室、トイレには手すりがほとんど無い。必要な方には、その方に合わせた手すりを設置。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室玄関に名札をはる。混乱を防ぐための施設等の説明を工夫。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	南向きのベランダには、花を置き、日向ぼっこ用に椅子等を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①	ほぼ全ての利用者の	
		○	②	利用者の2/3くらいの	
			③	利用者の1/3くらいの	
			④	ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①	毎日ある	
			②	数日に1回程度ある	
			③	たまにある	
			④	ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①	ほぼ全ての利用者が	
			②	利用者の2/3くらいが	
			③	利用者の1/3くらいが	
			④	ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①	ほぼ全ての家族と	
			②	家族の2/3くらいと	
			③	家族の1/3くらいと	
			④	ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の生活スタイルを尊重し、起床時間は自由にしていただいています。起床時間がずれると、朝食もその後の時間もその方なりに流れていくように

サポートしています。皆さん、自由に過ごされていると思います。

また、職員は、数人集まると簡単なケース検討をし、情報を申し送りながら、その方に合った対応を常に模索しています。